

テーマ 3 : イノベーションエコシステム形成

テーマ3では、令和3年度で検討してきた林業エコシステムの形成に向け、技術、地域、コーディネーターのマッチングを行い地域での事業推進につながる先進事例創出を目指します

テーマ3：イノベーションエコシステム形成の実施方針

昨年度の実施内容

- 令和3年度事業では、エコシステムの形成過程を分析し、林業界におけるエコシステム形成に必要なステップを分析した。
- 併せて支援組織としての森ハブの在り方についても検討し、コーディネーターを中心とした事業支援手法を提示した。

今年度の実施方針

- 昨年度、検討を行ったエコシステムの形成ステップに沿って、森ハブの支援体制の構築と最初の取組事例を創出する。
- エコシステムの成熟から見る国内の林業エコシステムはまだ初期段階であり、まずはプレイヤーをひきつけ、森ハブの事業内容を理解してもらえるような先進事例の創出に注力し、事業を推進する。

本年度の実施事項

本年度の成果物（例）

①技術の把握

- 技術リストやこれまでに林野庁が助成等にて支援してきた技術等の情報をもとに、普及に至る可能性が高い技術を選出する

②地域の把握

- 林野庁補助事業の取組実績等をもとに、林業イノベーションに対し積極的な地域を選出する

③仮説立案

- 技術や地域ニーズを深掘し、得られるソリューションや、普及を妨げている要因などを分析し、課題を解決するプロジェクトのイメージやゴール仮説を立案する

④コーディネーターのマッチング

- 仮説をもとに、事業推進に必要な知識やスキルを有するコーディネーター候補を選出し、マッチングを行う

⑤プロジェクト化に向けた検討

- 次年度以降の正式な協同事業の取り組み開始に向け事業戦略の策定等を支援する



【事業仮説/技術・地域検討】

作成目的 モデルとなる事例の選考方針を定め、
作成方法 該当する技術や地域を洗い出すため
デスクトップ調査やヒアリング調査を経て作成



【コーディネーター候補検討】

作成目的 声かけや事業参画依頼を実施するため
調査方法 デスクトップ調査を中心に実施



【ヒアリングの実施】

作成目的 課題の深堀を行い、解決策を検討するため
調査方法 ヒアリング調査を中心に実施

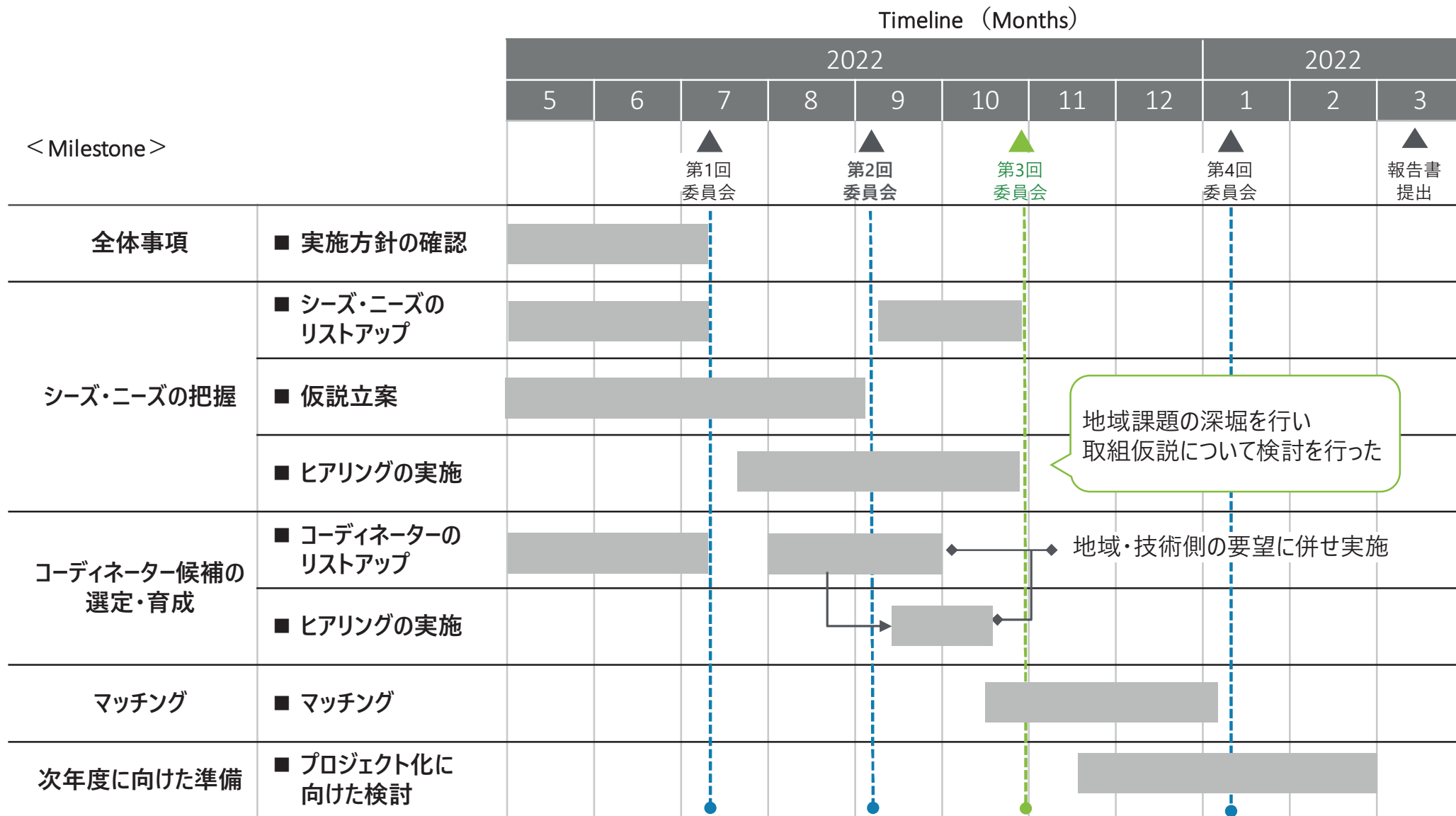


【次年度以降の事業計画】

作成目的 地域での事業推進に向けた具体的な取組内容
や事務局に求める支援内容を把握するため
調査方法 実証地域内での検討を中心に実施

本委員会では年間の実施方針、並びに最終的なマッチングに向けた必要要件の定義を行い、計画に沿って事業を推進し、各委員会にて活動の報告を行います

年間スケジュール



第2回委員会で受けた御意見とその対応方針は下記のとおりです

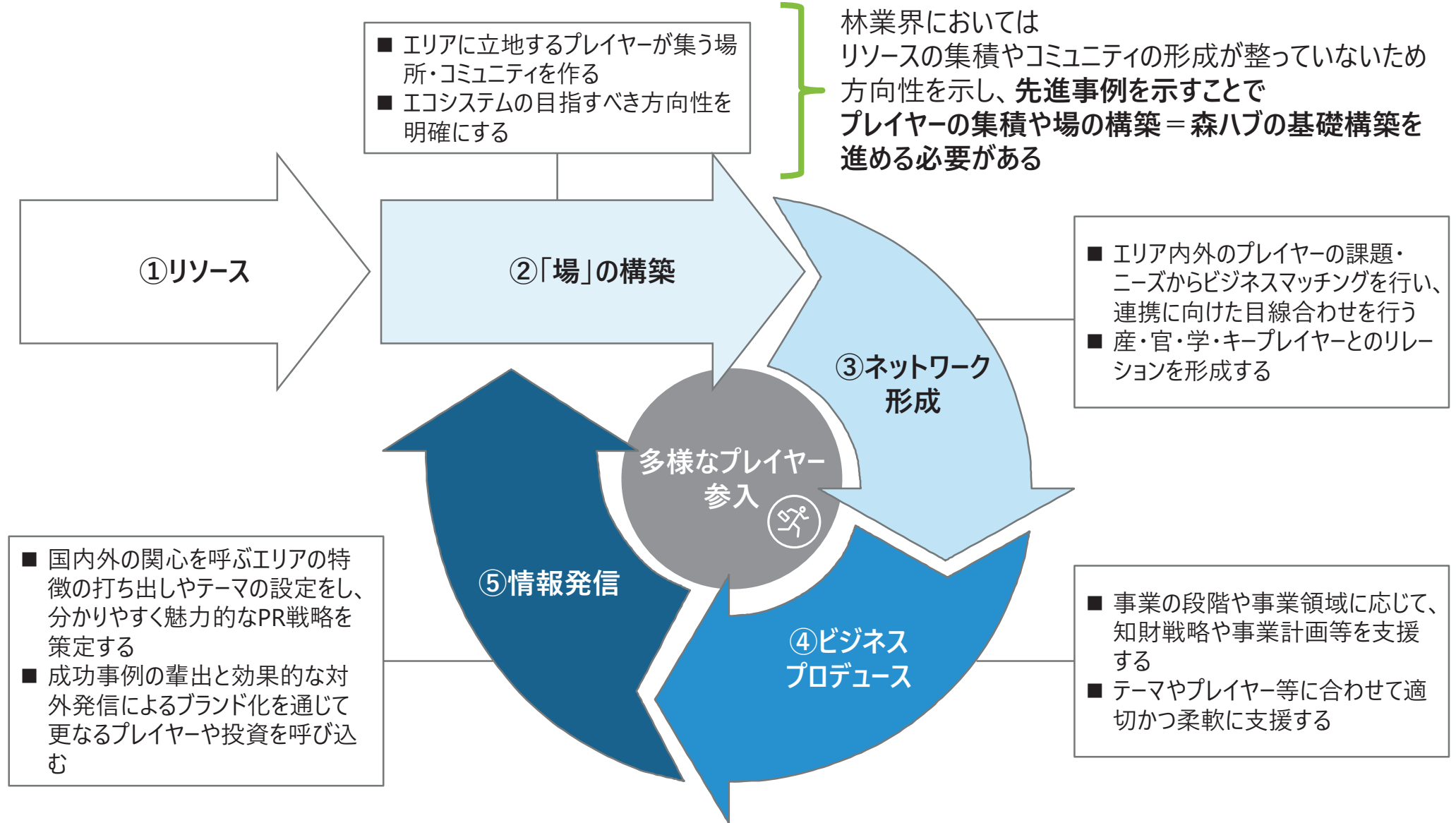
テーマ3：イノベーションエコシステム形成

項目	御意見概要	対応方針
ヒアリング	■ ヒアリング対象者に林業事業体、流通、製材等、過程のキープレーヤーを追加してほしい。	■ モデル地域候補関係者を中心に、追加ヒアリングを実施する。
	■ 大学・研究機関等へのヒアリングも追加してほしい。 ■ 信州大学・加藤教授、鹿児島大学・寺岡教授、宮崎大学・藤掛教授を推薦する。	■ モデル地域候補関係者を中心に、追加ヒアリングを実施する。
	■ 民間事業者がコアプレーヤーになっている場合、なぜその方がコアプレーヤーになったか経緯について聴取してほしい。 ■ 追加のヒアリング候補として、久慈の日當氏を推薦する。	■ コーディネーター人材に関するヒアリング候補として検討する。
森ハブの機能	■ 「ヒトづくり」を重視したエコシステムの形成を推進していくべきである。	■ コーディネーター人材、及び関与人材の育成について、次年度以降の森ハブの機能に含めることとする。（第2回委員会資料に反映済み）
	■ 省庁間の事業の枠を超えた連携も重要である。	■ 次年度以降の森ハブの機能に含めることとする。（第2回委員会資料に反映済み） ■ 今年度の情報共有手法についてはイベントを中心に検討し、対応する
	■ 山間地域等の地方においては、役場職員がコーディネーターとして重要な役割を担っているケースが多いため、人材もシェアしていかなければ成立しない。	■ 人材育成の視点の施策を次年度以降の森ハブの機能に含めることとする。（第2回委員会資料に反映済み）

推進状況の整理

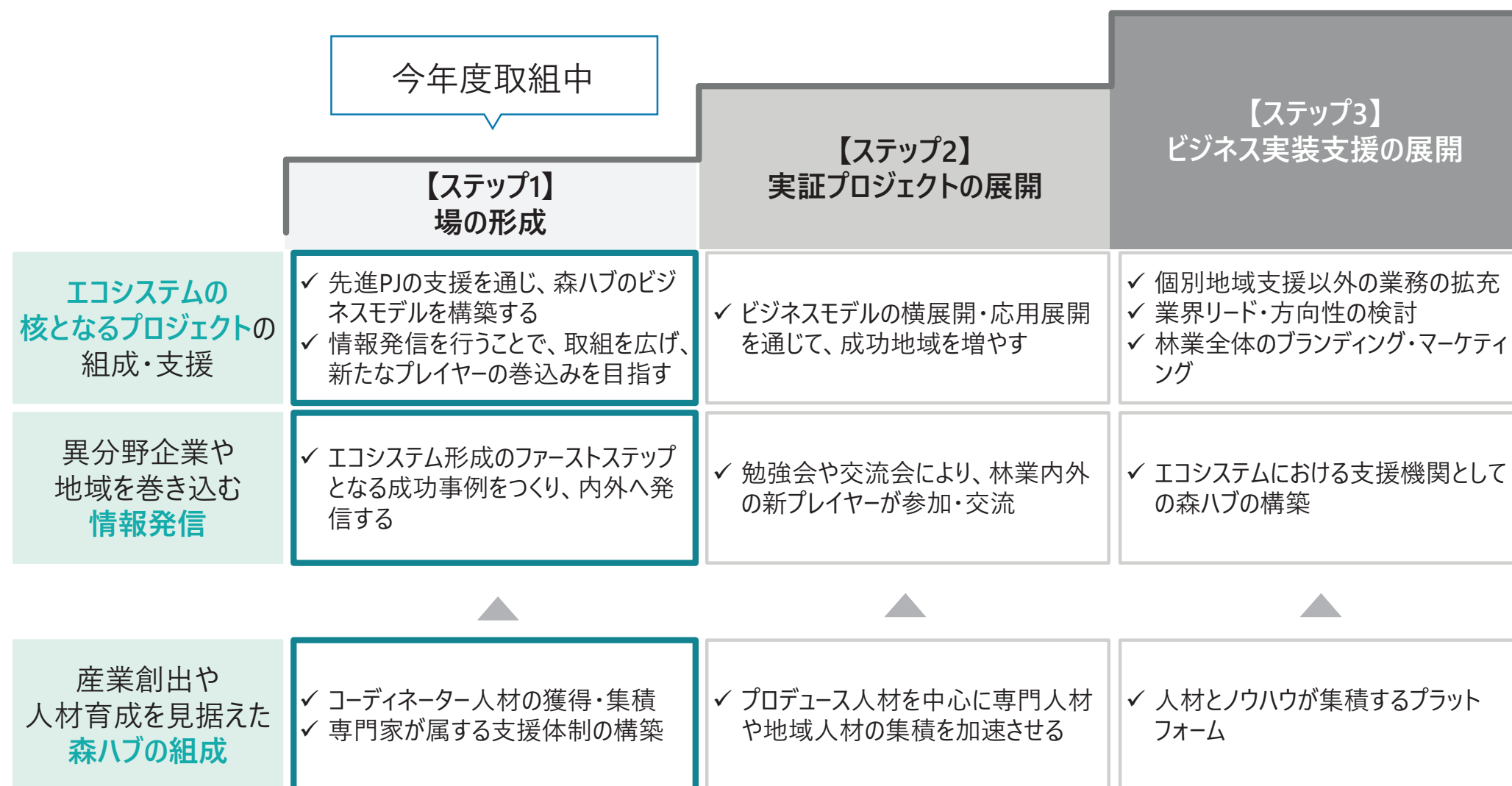
森ハブを中心としたエコシステムの形成に向け、今年度はフラッグシップとなるモデル事例を作り、情報を発信することで森ハブへのプレイヤーが集積する「場」の構築を目指しています

森ハブを中心としたエコシステム形成（※第1回委員会資料より抜粋）



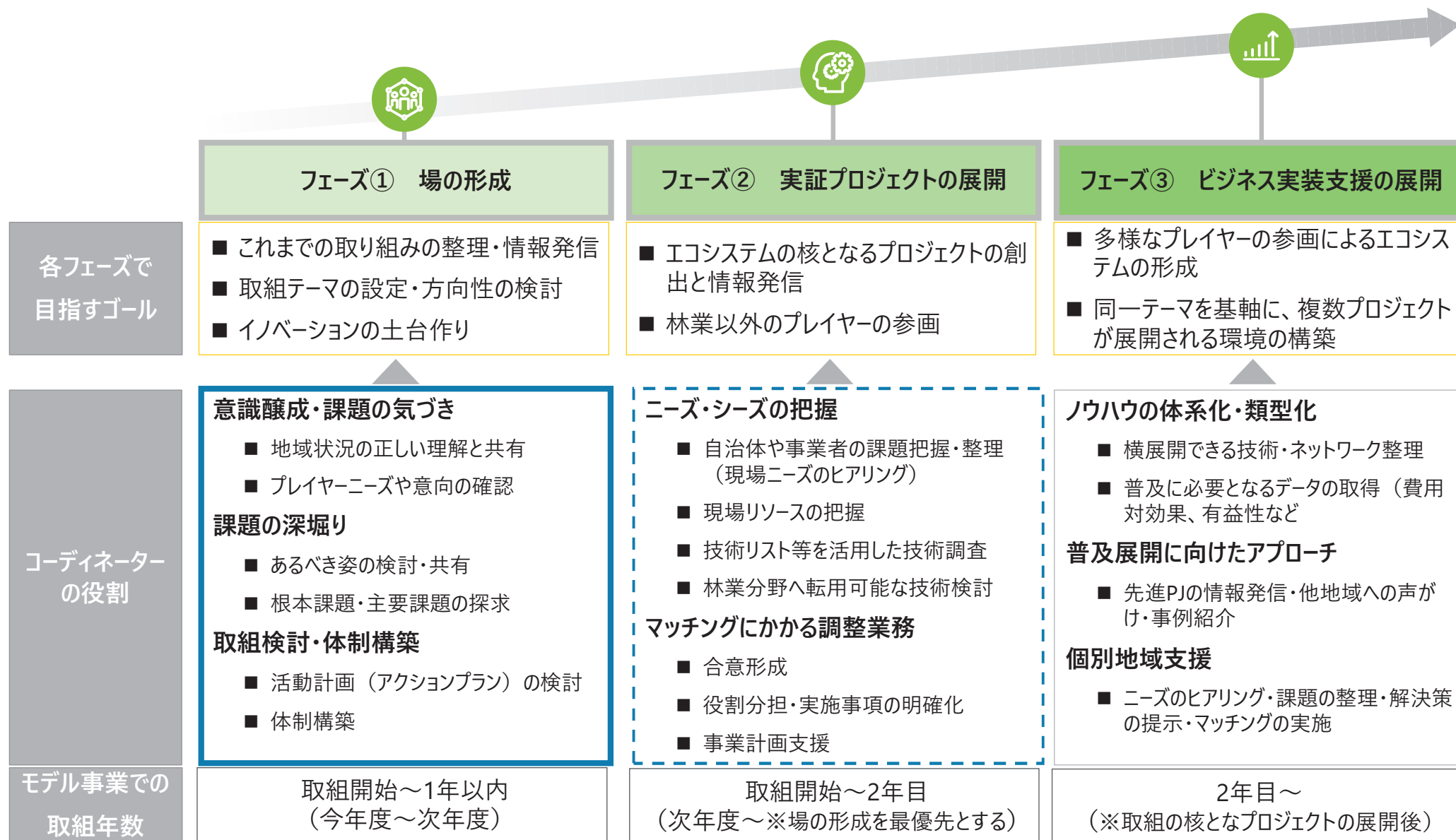
「場」の構築後は、エコシステムの形成に向け、ネットワーク形成やビジネスプロデュース、情報発信などを通じて、エコシステムの支援組織としての森ハブを確立します

森ハブの形成ステップ



地域でのエコシステム形成においては各フェーズにおいてコーディネーターや森ハブが適切な施策・支援を実行します

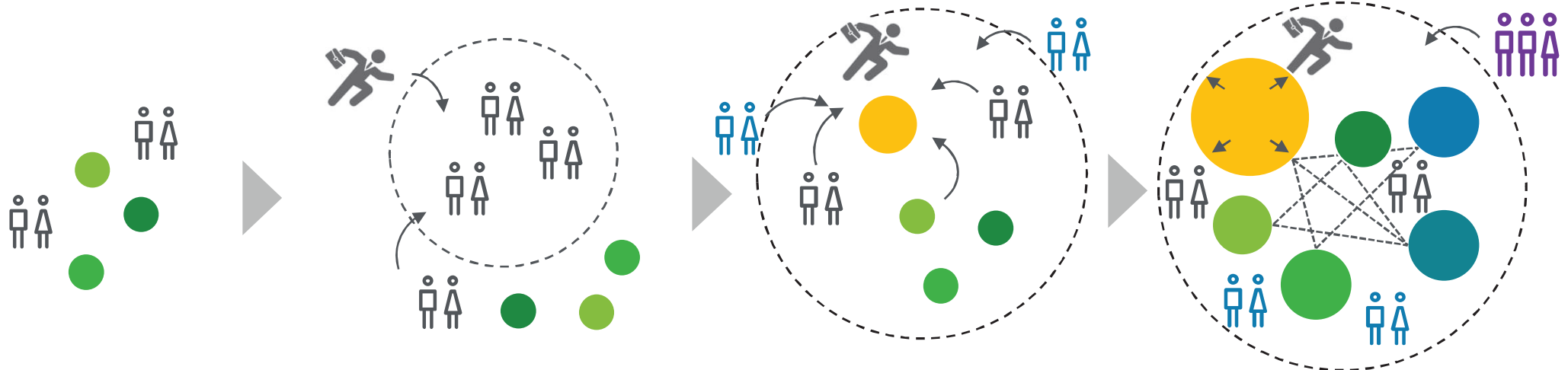
エコシステム形成のステップとコーディネーターの役割（※令和3年度検討、並びに第2回委員会資料を基に再考）



選定したモデル地域では取り組む事業を核に、プロジェクトを拡大していくとともに、テーマとなる課題に興味関心を持つプレイヤーやプロジェクトを呼び込み、エコシステムを拡大します

地域でのエコシステムの展開イメージ

		フェーズ① 場の形成	フェーズ② 実証プロジェクトの展開	フェーズ③ ビジネス実装支援の展開
各フェーズで 目指すゴール		■ これまでの取り組みの整理・情報発信 ■ 取組テーマの設定・方向性の検討 ■ イノベーションの土台作り	■ エコシステムの核となるプロジェクトの創出と情報発信 ■ 林業以外のプレイヤーの参画	■ 多様なプレイヤーの参画によるエコシステムの形成 ■ 同一テーマを基軸に、複数プロジェクトが展開される環境の構築
役割	森ハブ	必要人材のマッチング		情報共有・発信 多様な属性のプレイヤーのマッチング 個別プロジェクトへの助言、アドバイス
	コーディネータ	取組テーマの設定 関係者の巻き込み		他地域・異分野プレイヤーの巻き込み 新たなプロジェクトの組成・事業の発展



森ハブ連携前

地域内に複数事業があるものの個別であり、方向性もバラバラ

フェーズ① 場の形成

コーディネーターが参画し、これまでの取組をもとに取組テーマを設定
地域の意識醸成や体制構築を実施

フェーズ② 実証プロジェクトの展開

核となるプロジェクトを創出
関連プレイヤーや事業を連携しつつ情報発信等を通じてエコシステムを拡大

フェーズ③ ビジネス実装支援の展開

プロジェクトが拡大し、別プロジェクトと連携、異分野を含むプレイヤーが参画し、新たなプロジェクトを組成

ヒアリング概要

ヒアリングの進め方についてはイノベーションの推進意向を有する地域へのヒアリングに優先して取り組み、結果をふまえて地域課題の深堀を行ったのち、マッチング仮説を設定しました

実施方針

#	分野	現状
1	地域	✓ 取組初年度であるため、意識醸成・体制構築段階にある地域への支援については、コーディネーターによる支援が難しい可能性がある ✓ 過去実績において林業イノベーションに取り組んだ実績等を鑑み、事業推進体制を有する地域を選定したい
2	人材	✓ ①昨年度作成したコーディネーターの人材要件仮説を精査し、必要な人材をマッチングできる仕組みを整えるためのヒアリング、②地域・技術とマッチングさせるための具体的な候補者へのヒアリングの2つの視点での実施が必要である
3	技術	✓ 技術側の導入課題についてはある程度すでに整理されていると認識 ✓ 技術起点の導入はこれまでの事業でも多く行われており、イノベーションの現場実装を目指すためにはこれまでと違ったアプローチも必要である
4	事務局	✓ 技術・地域・人材の意向をふまえ、必要な体制の精査が必要である



実施方針
✓ 地域意向に沿ったマッチングに向けた支援を行うため、技術、人材に先行してヒアリングを実施する ✓ 森ハブの主目的である林業課題の解決を切り口として、過去の実績をもとに課題解決に向けた取組実績を有する地域を選定する ✓ 地域選定の際にはエコシステム形成目線からも評価を行い、事務局として必要なサポートの見極めを行う ✓ <u>適切な取組課題を導出するため、候補地域のコアプレイヤーの中から、属性の違う対象者を選出し、ヒアリングを実施する</u> ✓ <u>複数のヒアリング結果をもとに、マッチング技術のイメージを導出し、技術ヒアリングにつなげる</u>
✓ ①については、事務局のあり方の検討にもかかるため、地域へのヒアリングと同時進行ですでに地域でコーディネーターとして活動している人材に対し、ヒアリングを実施する ✓ ②については、地域・技術事業者へのヒアリング終了後、意向を反映して再度候補人材をリストアップし、実施する
✓ <u>先行して地域ニーズの把握に向けたヒアリングを行い、地域側の意向をふまえて技術事業者ヒアリングの対象者を選定する</u> ✓ ヒアリング先の選定にあたっては、地域意向をふまえるほか、政府戦略等で重要視されている技術を抽出し、地域へのヒアリング時の参考資料として提示する ✓ 地域へのヒアリングを通じた仮説設定後、地域と技術事業者へのヒアリングを同時に行い、必要なコーディネーター人材の洗い出しを行って、マッチングにつなげる
✓ 事務局の体制要件については、技術・地域・人材のヒアリング結果をふまえて、事務局にて仮説を検証し、委員会での検討を経て次年度の事業推進時に反映する

これまでの実績をもとに地域内で取り組む課題が明確化されており、推進体制が整っている地域を中心に10地域を候補として選定し、ヒアリングにて現況や課題等を探りました

地域選定の基準について（※再掲）

選定の前提	✓ 今年度のテーマ3：イノベーションエコシステム形成は <u>森ハブの支援実績となる先進事例を創出することを優先事項</u> としてとらえているため、 <u>地域内において取り組む課題が明確化</u> されており、 <u>課題解決に向けたイノベーションに対して推進する意思のある地域</u> を選定する。
リストアップ基準	✓ 林野庁補助事業採択実績や取組の発信実績を有する地域 ✓ 技術事業者と連携し、技術実証を行った経験のある地域 ✓ 先進的な取組を行っていることが、情報発信等を通じて見える地域 ※上記は自治体主導だけではなく、林業組合など事業者が積極的な地域も含む
調査対象（例）	✓ 林野庁「林業イノベーション推進総合対策や林業・木材産業成長産業化促進対策」等のうち、実証を実施している地域・団体 ✓ 内閣府「未来技術社会実装事業」のうち、林業に関する取組を行う地域・団体 ✓ 内閣官房「デジタル田園都市国家構想推進交付金」のうち、林業に関する取組を行う地域・団体 ✓ 他、当法人の有するリレーションを用いた情報収集によりピックアップした地域・団体
リストアップ後の対応	✓ リストアップした地域、団体10件程度を目安に、ヒアリング調査を実施し、エコシステム形成に向けたプレイヤーの集積、他事業との連携可能性、コアプレイヤーの確認等、地域の実情を理解し、フィージビリティを検証する ✓ 連携する技術やコーディネーターの要望を確認し、マッチングに向けた調整を行う

ヒアリングを行った 10 候補地域のうち、下記 3 地域について、地域内でのイノベーションの阻害要因を正確にとらえるため、異なる属性のプレイヤーに追加ヒアリングを実施しました

地域の絞り込みについて

モデル地域の 選定基準

- ✓ 今年度事業におけるモデル地域選定の前提として、
森ハブの支援実績となる先進事例の創出を優先事項ととらえていることをふまえ
 - ① 地域内において取り組む課題が明確化されている
 - ② 課題解決に向けたイノベーションに対して推進する意思がある ということに加え
 - ③ 森ハブとの連携意向を有する地域
 - ④ 技術導入による地域への効果が期待できる地域 をモデル地域候補として検討

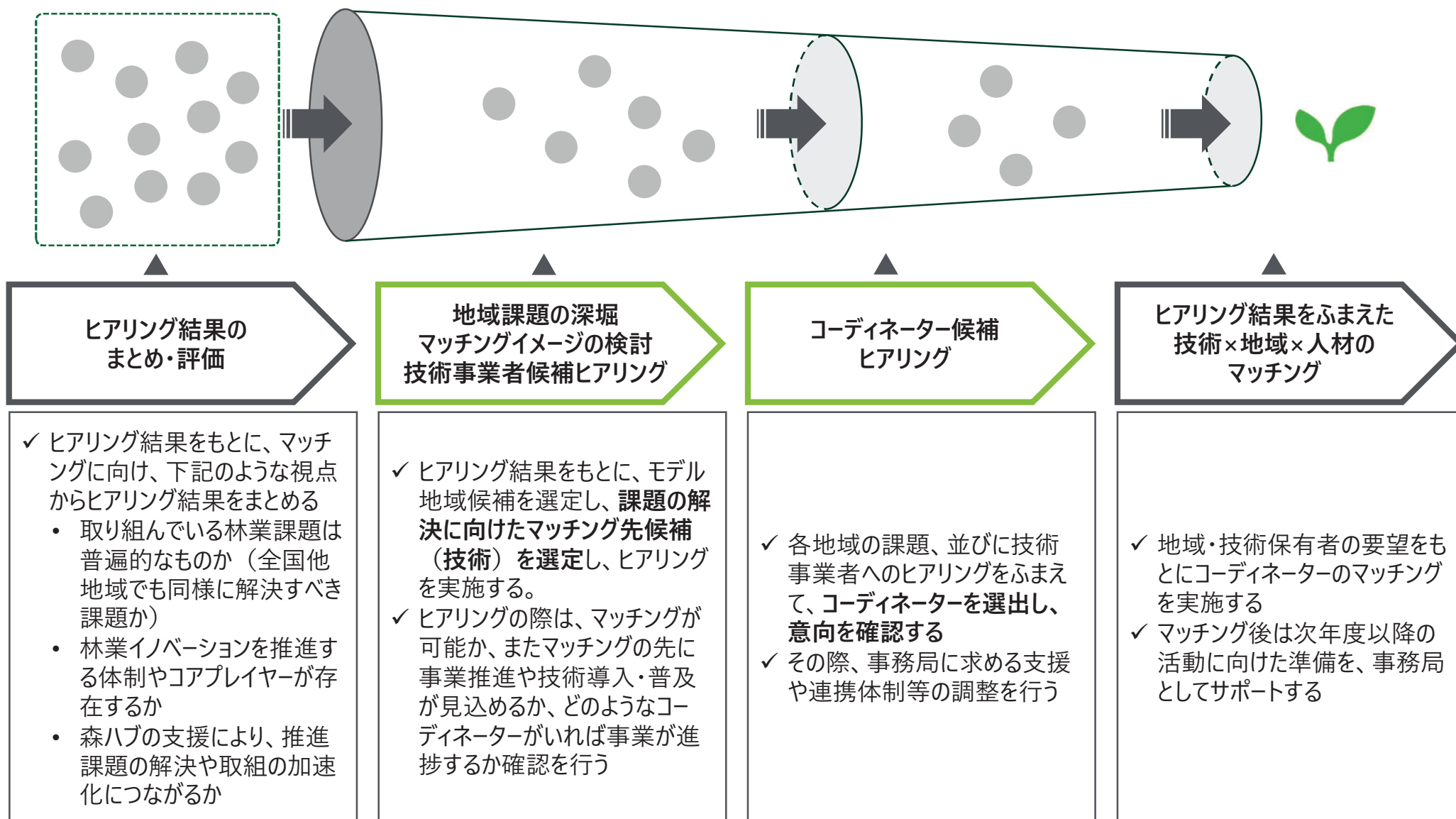
モデル地域 選定について

- ✓ これまでの地域ヒアリング結果をふまえ、地域側から技術導入に関連する課題感と方針が明示された
モデル地域候補名は
非公表 をモデル地域候補として検討している
- ✓ 一方で、地域から出た技術ニーズについては、取組課題や技術導入の阻害解消につながらないものが多かったため、地域の潜在的な課題を対象にした解決策を検討するため、地域内の異なる属性を持つプレイヤーへヒアリング調査を行い、課題の深堀と、結果をもとにした取組仮説の設定を行った

今後の推進方針

地域課題を深掘りし仮説立てた解決策について、技術保有者の見解もふまえた検証や必要なコーディネーターの選定を行い、エコシステムの核となるモデル事業を構築します

ヒアリング後の流れ



マッチング後は、コーディネーターが中心となり、エコシステムの形成に必要なステップを地域・技術事業者とともに推進していく想定です

エコシステム形成のステップとコーディネーターの役割（※再掲）

